

今昔周防國大島ノ郡ニ基燈ト云フ聖人有ケリ、略○中年百四十餘ニシテ腰不曲ズ、

〔古今著聞集十相撲強九〕近比近江國かいづに、金といふ遊女有けり、其所のさたの者也ける法師の妻にて、年比すみけるに、件の法師又あらぬ君に心をうつしてかよひけるを、金もれ聞て、やすからず思ひけり、ある夜合宿したりけるに、法師何心なくて、れいのやうに彼事くはだてんとて、またにはさまりたりけるを、其よは腰をつよくはさみてけり、玄ばしはたはぶれかと思ひて、はづせはづせといひければ、猶はさみつめて、和法師めが人あなづりして、人こそあらめ、おもてをならべたるものに心うつして、ねたきめみするに物ならはかさんと云て、たがしめに玄めまさりければ、既にあはをふきて死なんとしけり、

〔源平盛衰記〕清盛捕化鳥并一族官位昇進禿童并王莽事

適路次ニ逢輩ハ、御幸行幸ニ參會タル様ニテ、手ヲツキ腰ヲカ、メ走ノキテゾ過行ケル、禿ガ申事ヲバ、善惡ヲ糺サズ、入道許容シ給ケレバ、上下萬人是ニ追從シテ、善モ惡モ平家ノ事ヲバ云ズ、

〔太平記二十二〕佐々木胤胤成宮方事

土佐守略○中出絹ノ中ヲ見入タレバ、年ノ程八十計ナル古尼ノ額ニハ皴ノミヨリテ、口ニハ齒一モナキガ腰二重ニ曲テゾ乗タリケル、

〔陰德太平記三十三〕備中國松山落城附吉田左京亮自害事

左京亮○吉田左京、吾身ハ河中ナル石上ニ腰ヲ掛、大音聲ヲ揚テ、吉田左京亮義辰ト云大剛ノ者ガ、自害スルヲ見置テ、後代ノ物語ニセヨヤトテ、腹十文字ニ搔切、サテ太刀ヲ取直シ、自喉ヲ押切テ、河水ノ底ヘ飛入ケル形象ハ、項王ノ烏江ノ戰死、辨慶ガ衣川ノ立死モ、カクコソ有ケメト、前後ノ敵共ア、切タリ左京トテ、感ズル聲少頃ハ、鳴モ不止ケリ、彼腰掛タル石ヲバ、時ノ人吉田石ト號シ、今ニ陵谷ノ變ニモ不值トカヤ、